

時間を大切にする人に



「時は金なり」「早起きは三文の得」など、時間を大切にすることわざは、数多く存在します。古くから時間を守ることは、人々の暮らしにとって、大変意義のあることとされてきました。このことは、現代社会においても普遍的価値観を有しています。

時間を守ることの良さは、まず、何事においても、良いスタートを切ることにつながります。例えば、学校に始業時間ギリギリに登校しても、良い学習のスタートを切ることにはできません。教室に入り、荷物を整理し自席へ座り始業を待つ。場合によっては、提出物の整理等もあるかもしれません。余裕を持って登校し、そのような朝のルーティンを落ちついて行うことが、質の良い学習へとつながります。また、余裕を持って登校するためには、遡って朝食の時間、起床時間を決めることにつながり、更には就寝時間や家庭での学習時間が自ずと決まってくるようになります。このように、より良い一日のスケジュールができあがるわけです。「時間を守ることで、全ての行動開始時刻に意味が生まれ、目的を達成しやすくなる。」このことは、生徒達の人生に大きな好影響を及ぼすはずです。

また、人と関わり合いながら生活をする上においても時間を守ることは、相手を尊重することにつながります。約束の時間を守らないことは、相手の時間を奪ってしまうことになるからです。

本校の始業時刻は午前8時10分です。8時10分に朝自習を開始できるよう準備まで済ませる必要があります。最近、以前、8時10分ギリギリに校門をくぐっていた生徒も、余裕を持って登校することができるようになってきました。今、七中は本校職員の指導と、保護者の皆さんのご家庭での励ましのおかげで「遅刻0」が当たり前前の学校になりつつあります。時を守ることで、生徒一人一人の人生が豊かになるよう、これからも生徒達を支え続けていきたいと思っています。



食の大切さを考える

先日、「学校給食週間」にちなんで、生徒会給食委員会主催で、給食完食運動が実施されました。沢山食べられる生徒や食の細い生徒など人それぞれですので、それぞれ食べられる分量を注いだ給食の完食を目指す取組でした。学級対抗のクラスマッチ形式で実施されましたが、結果はなんと「全クラス1位」というものでした。これは全てのクラスで全員が自分の分の給食を残さず食べきったということです。生徒集会で結果が発表され、すべてのクラスの代表者が表彰を受けた素晴らしい取組でした。

世界で食品ロスが問題視される中、捨てられる食品の約3割を占めるといわれている残食をいかに減らすかが、問題解決のポイントだと言われています。以前、SNS映えを目的として大盛りラーメンを注文してインスタグラム等に投稿したものの、その後食事をした結果、半分も食べられずに残す人が急増したことが問題視されたことがあります。無理して沢山食べたり、顔をゆがめながら激辛料理を食べたりするテレビ番組も時々見られます。「食」は、私たちにとってまさに日常です。食生活を豊かにしたいと誰もが願っています。ですから人々の食に関する興味・関心をかき立てる情報に需要があるのも当然です。しかし、はたして、これらの行為が食事を大切にいただくことにつながっているのか甚だ疑問を感じます。

給食完食運動の表彰の後、学校栄養職員の庄村実優先生から、学校給食が、中学生にとって栄養価が高く、生徒達の成長を大きく支えるものになっていることについてお話いただきました。「好き嫌いを残さず何でも食べる」という食の基本の大切さについて改めて考えることができた貴重な時間となりました。

